

令和7年度第1回（第64回）地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

1 日 時 令和7年7月24日（木）15:00～16:30

2 場 所 （地独）鳥取県産業技術センター大会議室

3 内 容

（1）産業技術センターから令和6年度実績について説明

（2）質疑応答（○：委員の質問、■：センターの回答）

○取組によって何かが出来たということは分かったが、その結果どういう具体的な成果が得られたか分からないところがあった。例えば、重点プロジェクトのDX推進プロジェクトで具体的なテーマが挙がって企業が導入しているとあったが、例えば技術移転で定量的にどのくらい売上高に繋がったとか把握されているか。

■実際、全部を把握できてないところはあるが、DXの事例として紹介した中で“A社はポンプを交換された後に何%消費電力が削減できた”といったように直ぐわかるようなデータは教えていただいて、我々も効果を把握しているところ。まだ商品になってないものも多くあるが、これからおっしゃる通り把握をしていきたいと思う。

○KPIは非常に良く達成出来ている。特に企業訪問数はKPI比で130%近くになっているが、何か要因はあるか。もう少しチャレンジングな目標設定をすべきということはないか。

■KPIの設定は、年度ごとにテーマを決めて行っている。今回、企業訪問は「調査型」から「課題解決型」にしようということでKPIを650件に設定した。実際、重点プロジェクト等で現場に入ると、いろいろ課題解決をすとか、例えば、食品のプロジェクトについても、開発した物が出来て、企業にどうですかというように話をする機会がたくさん出てきて、そういうふうに数が伸びたのもあると思う。もう一つ、調査型にはなってしまうが、中小企業診断士と組んで、いろんな意見を聞きに行こうと積極的に回ったことで件数が増えたと考える。

○中小企業診断士と一緒にというのは非常に面白い取り組みだなと思うが、従来と違う成果はあったか。

■中小企業診断士と一緒に回った職員の見る観点が変わってきた。自分達の技術的な観点だけでなく、経営面とか工程改善などの面も見ることが出来るようになった。

○いかに成果を広報していくかが重要だと考える。

■実際に技術開発しても、それが製品になっていくとか、売り上げに繋がっていくには、時間がかかるが、企業にとってはビジネスになることが最終目的なので、各研究員が、その後どうなっているか、困っていることがないかということを引き続きフォローしていきたいと思う。その中で、成果に繋がったものは、もっとアピールをしていきたいと思っている。

○近年成長が著しいAIについて、追いついて行けていない企業もあると思うのでサポート等をお願いしたい。

■ChatGPTを使ったロボットのプログラミングみたいなものは、既に企業に提供して、実際に使ってもらっているところもある。今年度、更に取り組んでいこうということで、ChatGPTを活用した制御プログラムの導入研修なども予定している。またプログラミング知識がなくてもそういうものを活用したらスムーズにいくこともあるので、各研究員がきちっと情報を掴んで、県内企業に提供できるようにと考えている。

○関西広域産業競争プラットフォームのメンバーに鳥取県産業技術センターが入っていることをもっとPRされてはどうか。

■関西広域とは年数回、情報交換をしており、実際に他県からの質問に対して、当センターを紹介いただいて、それに対してフィードバックすることもさせていただいている。具体的には、関

西圏内の地元のセンターでは解決しないが当センターで対応できるというものや、或いは、当センターで医療機器を取り扱った事例では、関西圏内の企業に技術を使ってもらえるところはないかということをお願いするなどでもできる。確かに県内企業にPR不足だなと思うので、とっと技術NEWSやホームページなどで広報して行きたい。

○県外企業（海外企業も含めて）との付き合い方に関して、分析しないと次につないで行きにくいので、例えば、県外企業から人材育成について問い合わせが増えた、とかそういう分析をまとめられるとよい。

■県内企業とのやりとりが主で、基本的には県外企業の対応を発展させていくということではないが、展示会に出てみるといろいろな提案をされる県外企業もたくさんある。技術に興味を持って、使えないかなとか、自分たちの課題をこれで解決できないかといってこられる場合が大半である。県外企業の利用で多いのは、機器利用。先程の関西プラットフォームや中国地域の取り決めで、県内企業と同じ条件で利用してもらっている。

○プラネタリーヘルスの観点で行っている取組やサポートしているものはあるか。地球の健康を守ることは人間の健康も守りますよっていうことを、どんどんやっていかないといけなくて、その時に、こういうことをしたらうまくとか、こんな事例があると、ぜひそういう目線で一度まとめていただければなと思っている。

■その辺まで踏み込んで我々は意識高くはできてなかったかもしれないが、今後、重要な課題でもあるし企業さんも取り組まれる課題になると思うので、意識してやっていくべきだと思っている。

○中小企業診断士と一緒に何か取り組むことは非常に面白いと感じた。中小企業診断士と話す中で、おそらく金額的な話も出ていると思うので、そこをアピールしていただくと、経営者からすると大変とっかかりやすい。

■中小企業診断士とタッグを組むのは昨年度が初めてだったが、今後、どういう形で経営者の方々にアピールしていくか、よく意見交換をしながら考えていきたいと思う。

- ・質疑応答後、産業技術センターが退室。
- ・事務局から評価方法、評価スケジュール等について案内。

(以上)